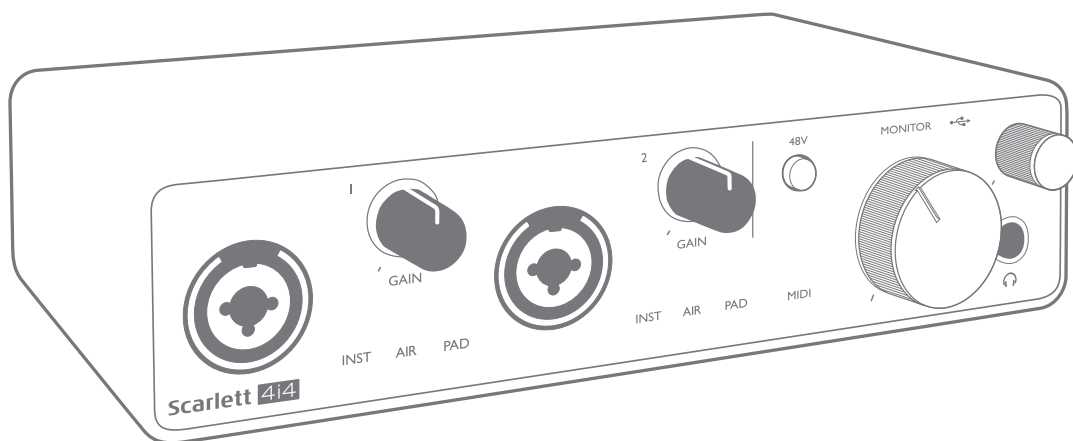


Scarlett 4i4

ユーザーガイド



Focusrite®
www.focusrite.com

目次

概要	3
はじめに	3
特徴	3
同梱品	4
システム要件	4
作業の開始	5
クイックスタートツール	5
Mac ユーザー専用の手順:	5
Windows 専用の手順:	7
すべてのユーザー用の手順:	9
手動による登録	9
DAW でのオーディオのセットアップ	10
ループバック入力	11
使用例	12
マイクまたは楽器の接続	12
ダイレクトモニタリングの使用	13
Scarlett 4i4 のラウドスピーカーへの接続	14
エフェクトループの作成	15
Scarlett 4i4 の DJ ミキサーへの接続	16
ハードウェアの特徴	17
フロントパネル	17
バックパネル	18
チャネル一覧	19
性能仕様	19
物理的特性と電気的特性	21
トラブルシューティング	22
著作権表示と法定通知	22

概要

はじめに

この度は、第三世代 Scarlett 4i4 をお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品は、Focusrite プロフェッショナル用コンピューターオーディオインターフェイスファミリーの一つで、高品質の Focusrite アナログプリアンプが内蔵されています。高品質の音声をお使いのコンピューターへ入出力ルーティングするシンプルでコンパクトなソリューションをご利用いただけます。また、ご購入製品を登録すると、エキサイティングな新しいソフトウェアプラグインをダウンロードできます。

この第三世代シリーズの Scarlett インターフェイスの開発においては、性能と機能の両方にさらなる改良を加えました。本装置全体のオーディオ仕様をアップグレードしてダイナミックレンジを拡大し、ノイズや歪みをさらに低減し、マイクプリアンプの入力レベルを向上しました。また、重要な強化点は、Focusrite の AIR 機能を搭載したことです。AIR を使用すると、プリアンプの周波数特性を Input 1 および 2 で個々に選択して微修正し、伝統的なトランスフォーマーベース ISA マイクプリアンプの音波特性をモデリングできます。音質の良いマイクで録音すると、ボーカルや多くの音響機器で最も必要とされる重要な中高周波数帯域（中高音域）の透明性と明瞭性が向上します。第三世代 Scarlett インターフェイスは、macOS ではクラスコンプライアントです。つまり、接続するだけですぐに使用でき、Mac ユーザーの方であればドライバーをインストールする必要はありません。

このユーザーガイドでは、本製品の操作上の特徴を十分にご理解いただくために、ハードウェアについて詳細に説明しています。弊社では、コンピューターベースレコーディングの初心者の方だけでなく、熟練者の方も、時間をとって本ユーザーガイドをご一読いただくよう推奨しています。そうすることで、Scarlett 4i4 および付属のソフトウェアのすべての機能を完全に把握することができます。本ユーザーガイドの主なセクションに必要な情報が掲載されていない場合には、<https://support.focusrite.com/> をご覧ください。本サイトには、広範囲にわたって集められた一般的なテクニカルサポートのお問い合わせに対する回答が掲載されています。

特徴

Scarlett 4i4 ハードウェアインターフェイスは、マイクや楽器、またはラインレベルの音声信号を Mac OS または Windows が稼動しているコンピューターに接続するための手段を備えています。物理入力部の信号は、お使いのオーディオレコーディングソフトウェア/デジタルオーディオワークステーション（以下、本ユーザーガイド全体を通して「DAW」といいます）へ最大 24 ビット、192 kHz の解像度でルーティングできます。同様に、DAW のモニター出力または録音された出力は、本製品の物理出力部に送られます。

物理入力部に接続された音源（マイク、楽器など）は、DAW で録音され、DAW から物理出力部にルーティングされます。4i4 は、4 つのオーディオ出力チャンネルを装備しています。これらのチャンネルは、アンプやスピーカー、パワーモニター、ヘッドフォン、DJ またはその他のタイプのアナログミキサーまたはその他の使用したいアナログオーディオ機器に接続することができます。Scarlett 4i4 のすべての入出力は、お使いの DAW との間で直接ルーティングされ、レコーディングや再生が行われますが、そのルーティングは、4i4 に付属している Focusrite Control アプリケーション内でニーズに合わせて設定できます。また、4i4 は、お使いのコンピューターと他の MIDI 装置間で便利な MIDI インターフェイスとして機能します。

DJ の方のために、ノート型パソコンで内部ミキシングを行う際に、4 つのアナログ出力部で、ステレオマスター出力やヘッドフォンキューチャンネルを利用できるようになっています。また、2 つの別のステレオ出力をアナログ DJ ミキサーへの接続などに自由に使用することができます。

同梱品

Scarlett 4i4 には、以下の付属品が同梱されています。

- USB ケーブル、Type 'A' ~ Type 'C'
- 「はじめにお読みください」情報 (梱包箱のふたの内側に記載)
- 重要な安全情報

システム要件

お使いのコンピューターのオペレーティングシステム (OS) が、Scarlett 4i4 に対応しているかを確認する最も簡単な方法は、弊社サイト <https://customer.focusrite.com/downloads/os> に掲載されているオンライン OS チェッカーを使用することです。時間の経過に伴い、OS の新バージョンがリリースされるため、弊社の <https://support.focusrite.com/hc/en-gb> サイトを検索することで、継続的に互換性情報の更新の有無を確認することができます。

作業の開始

Scarlett インターフェイスの第三世代には、Scarlett クイックスタートツールを使用した新しい、より迅速な起動方法が導入されています。必要な操作は、Scarlett 4i4 をお使いのコンピューターに接続するだけです。接続されると、お使いの PC または Mac にデバイスが認識され、クイックスタートツールにより、操作方法の案内が表示されます。

重要: Scarlett 4i4 には、USB 2.0 Type C ポートが 1 つ搭載 (リヤパネル上) されています。付属の USB ケーブルを使用してこのポートとコンピューターを接続します。Scarlett 4i4 は、USB 2.0 デバイスです。このため、その USB を接続するには、お使いのコンピューターに USB 2.0+ に対応したポートが必要です。この USB 接続を介して、Scarlett 4i4 にコンピューターから電力が供給されるため、別途電源をご用意いただく必要はありません。ただし、ノート型パソコンを使用する場合には、AC アダプターを使用してそのノート型パソコンに電力を供給することを推奨します。AC アダプターを使用しない場合、バッテリーの電池の消耗がノート型パソコンのみに電源供給する場合よりも早くなります。

コンピューターは、最初は Scarlett をマストレージデバイス (MSD) として取扱います。このため、最初の接続時には Scarlett は、「MSD モード」になります。

クイックスタートツール

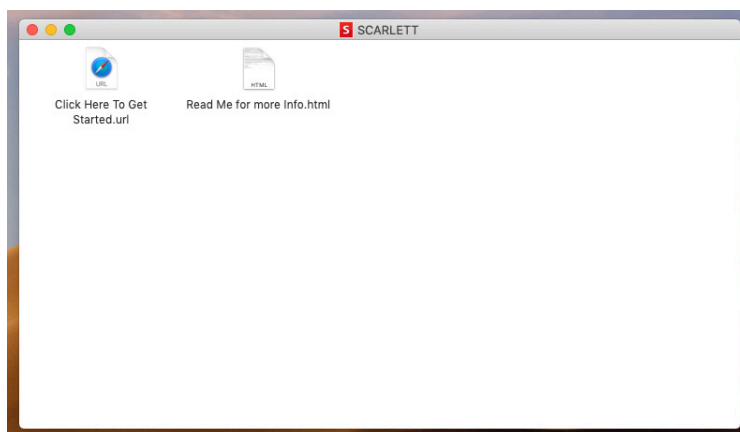
弊社は、Scarlett 4i4 の登録手続きをできる限り簡単なものにするために尽力しています。その手順はおそらく見ればすぐお分かりいただけるかと思いますが、PC または Mac 上の表示をご確認いただけるように各ステップを以下に記載します。

Mac ユーザー専用の手順:

お使いの Mac に Scarlett 4i4 を接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されます。



そのアイコンをダブルクリックして、以下に示す Finder ウィンドウを開きます。



“Click Here to Get Started.url” アイコンをダブルクリックします。これを行うと、Focusrite の Web サイトにリダイレクトされます。このサイトで、デバイスの登録を行うことを推奨します。



“Let's get you started” をクリックします。部分的にあらかじめ自動入力されたフォームが表示されます。フォームを送信すると、ダウンロードサイトに直接移動して Scarlett 用のソフトウェアを取得するか、または手順に従ってセットアップを行うかを選択するように促すオプションが表示されます。Focusrite Control ソフトウェアをインストールして、インターフェイスのセットアップおよび設定を完了すると、Scarlett は MSD モードから切り替わり、お使いのコンピューターに接続しても、マスタストレージデバイスとして表示されなくなります。

お使いの OS で、コンピューターのデフォルトのオーディオ入出力が自動的に Scarlett 4i4 に切り替わります。これを確認するには、**System Preferences > Sound** に移動し、入出力が **Scarlett 4i4** に設定されていることを確認します。Mac のセットアップオプションに関する詳細については、**Applications > Utilities > Audio MIDI Setup** の順に選択して表示し、参照してください。

Windows 専用の手順:

お使いの PC に Scarlett 4i4 を接続すると、デスクトップに Scarlett アイコンが表示されます。

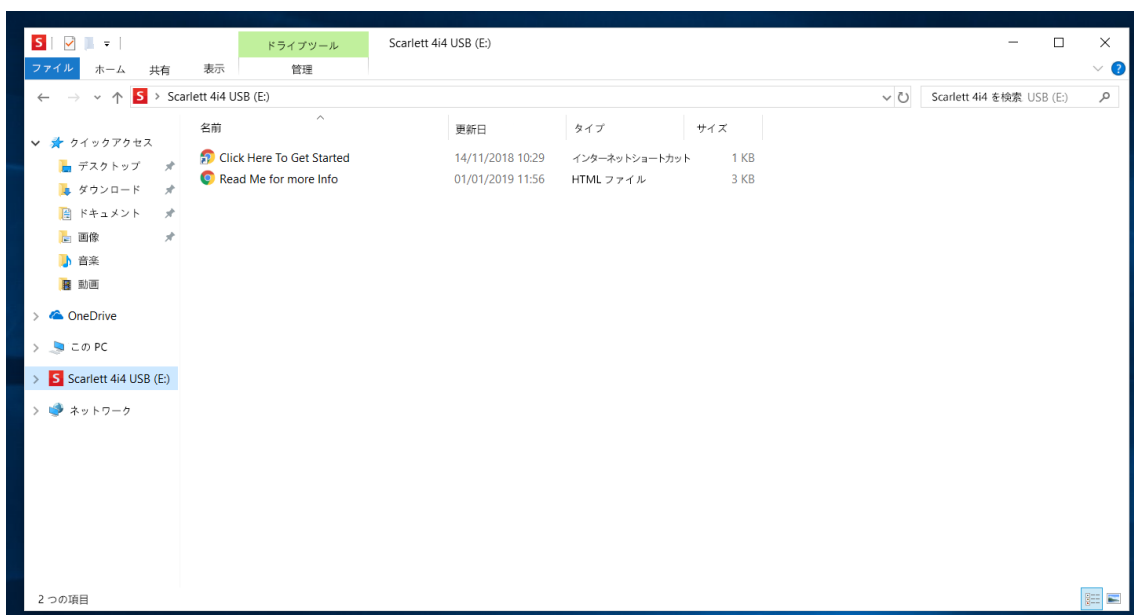


(お使いの PC への他のデバイスの接続状況によっては、ドライブの文字が E 以外である場合があります)

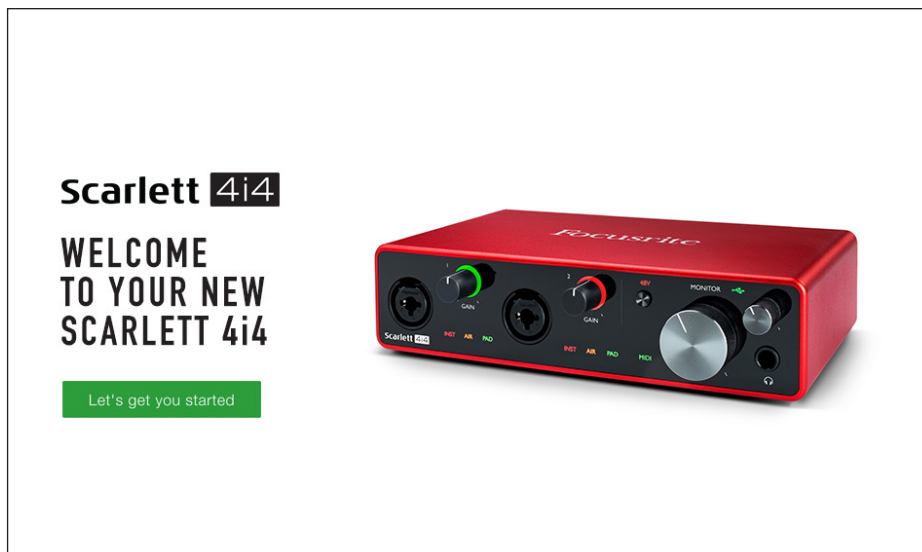
ポップアップメッセージをダブルクリックして、以下に示すダイアログボックスを開きます。



“Open folder to view files” をダブルクリックします。これを行うと、以下のような Explorer ウィンドウが開きます。



“Click Here to Get Started” をダブルクリックします。これを行うと、Focusrite の Web サイトにリダイレクトされます。このサイトで、デバイスの登録を行うことを推奨します。



“Let's get you started” をクリックします。部分的にあらかじめ自動入力されたフォームが表示されます。フォームを送信すると、ダウンロードサイトに直接移動して Scarlett 用のソフトウェアを取得するか、または手順に従ってセットアップを行うかを選択するように促すオプションが表示されます。Focusrite Control ソフトウェアをインストールして、インターフェイスのセットアップおよび設定を完了すると、Scarlett は MSD モードから切り替わり、お使いのコンピューターに接続しても、マストレージデバイスとして表示されなくなります。

お使いの OS で、コンピューターのデフォルトのオーディオ入出力が Scarlett 4i4 に自動的に切り替わります。これを確認するには、タスクバーの Sound アイコンを右クリックし、**Sound Settings** を選択して、Scarlett を入出力デバイスとして設定します。

すべてのユーザー用の手順:

2 つ目のファイル “More Info & FAQs” もこの最初のセットアッププロセス時に入手できます。このファイルには、この手順で問題が発生した場合に役に立つ Focusrite クイックスタートツールに関する追加情報がいくつか含まれています。

登録が完了すると、以下のリソースにすぐにアクセスできます。

- Focusrite Control (Mac 版と Windows 版があります) - 以下の注記を参照してください。
- 多言語のユーザーガイド

アカウントページ内に、以下のバンドルソフトウェアのライセンスコードとリンクが提供されます。

- Pro Tools | First
- Ableton Live Lite
- Focusrite Red 2 & 3 Plug-in Suite
- Softube Time and Tone bundle
- XLN Addictive Keys
- Plug-in Collective Offers

注記: Focusrite Control をインストールすると、購入したデバイス用の適切なドライバーも自動的にインストールされます。Focusrite Control は、いつでもダウンロードできます。登録しなくても入手可能です。以下の「手動による登録」を参照してください。

手動による登録

Scarlett 4i4 を後で登録することを選択した場合、登録は <https://customer.focusrite.com/user/register> で行うことができます。シリアル番号を手動で入力する必要があります。この番号は、インターフェイス本体の基部にあります。また、梱包箱の側面のバーコードラベルにも記載されています。

弊社では、Focusrite Control アプリケーションをダウンロードして、インストールすることを推奨しています。これを行うことで、MSD モードを無効にして、本インターフェイスの性能を最大限に引き出すことができます。MSD モード時には、本インターフェイスは最大 48 kHz のサンプルレートで機能します。お使いのコンピューターに Focusrite Control をインストールすると、最大 192 kHz で作業できます。Focusrite Control をすぐにダウンロードしてインストールしないことを選択する場合には、<https://customer.focusrite.com/support/downloads> からいつでもダウンロードできます。

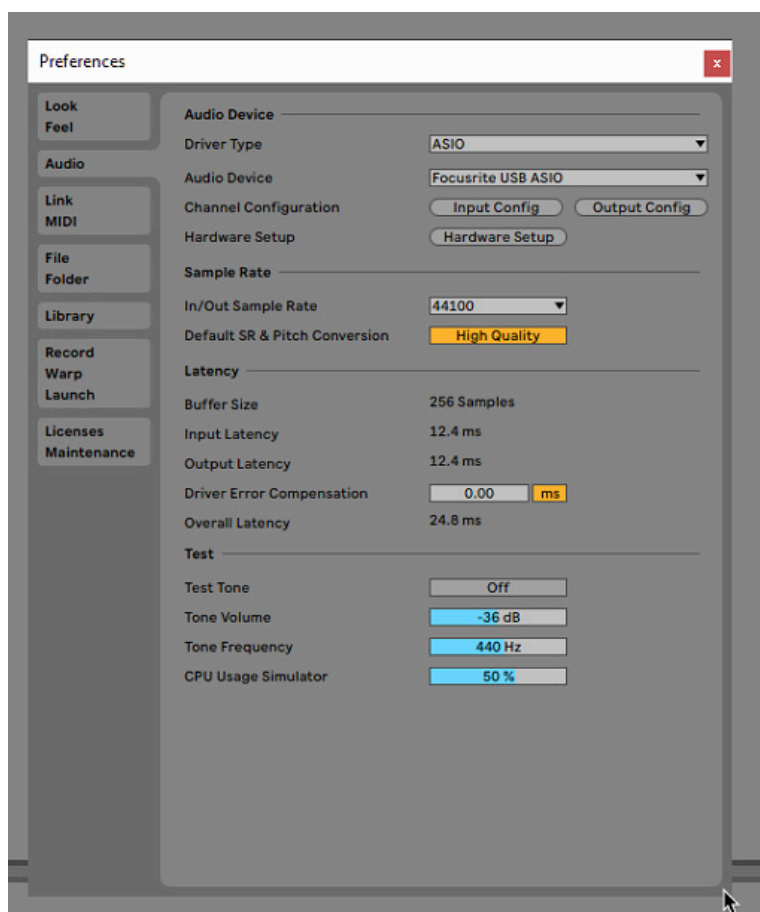
最初に登録せずに Scarlett 4i4 を強制的に MSD モードから移行させるには、お使いのホストコンピューターに接続して、**48V** ボタンを 5 秒間長押しします。これにより、Scarlett 4i4 はその機能性をフルに発揮できます。この操作を行った後に、Scarlett 4i4 を登録する場合には、上述の手順に従って手動で登録する必要がありますのでご注意ください。

DAW でのオーディオのセットアップ

Scarlett 4i4 は、ASIO または WDM をサポートする Windows ベースの DAW にも、Core Audio を使用する Mac ベースの DAW にも対応しています。前述の「作業の開始」手順に従って操作を行うと、お使いの DAW で Scarlett 4i4 の使用を開始できます。DAW アプリケーションがお使いのコンピューターにインストールされていない場合でも、製品の使用を開始できるように、ProTools | First および Ableton Live Lite が同梱されています。このソフトウェアは、購入した Scarlett 4i4 を登録すると、利用可能になります。いずれかの DAW のインストールで支援が必要な場合には、弊社サイト <https://focusrite.com/get-started> の Getting Started ページをご覧ください。各種 Getting Started ビデオを視聴できます。

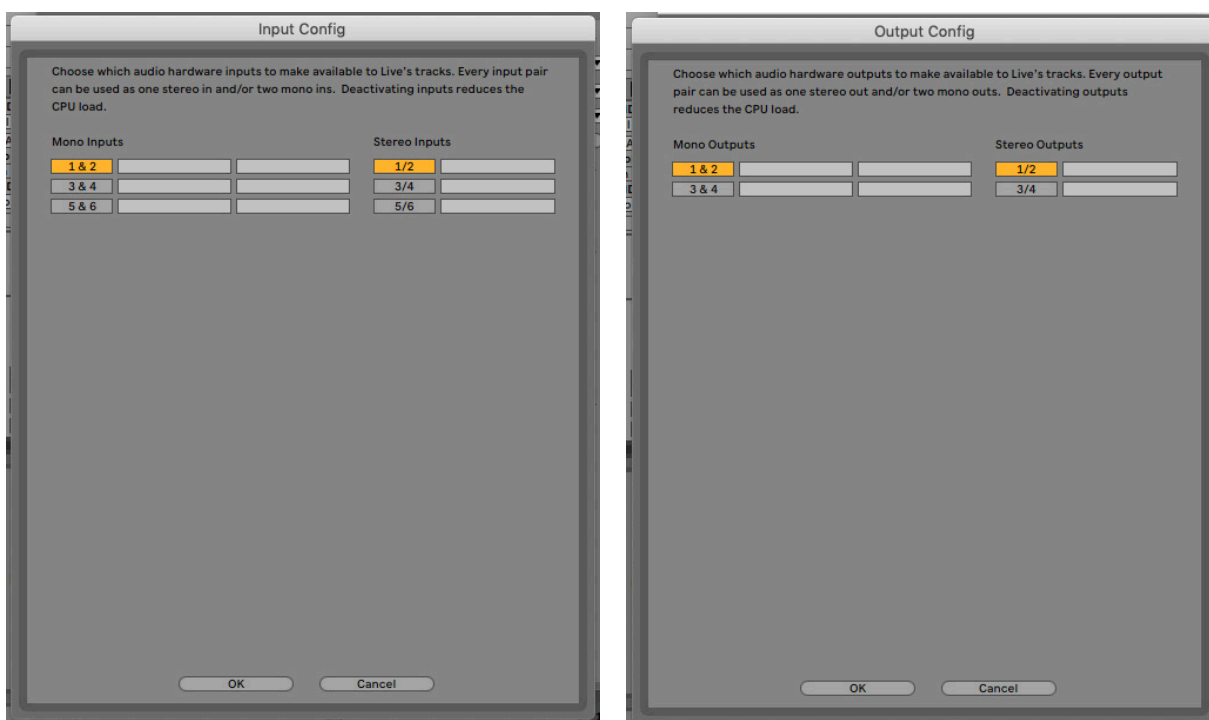
ProTools | First および Ableton Live Lite の操作手順は、本ユーザーガイドの範囲外になりますが、どちらのアプリケーションにも完全なヘルプファイルが付属しています。また、操作説明書は、www.avid.com および www.ableton.com でも、それぞれ入手できます。

お使いの DAW で Scarlett 4i4 がデフォルトの I/O デバイスとして自動的に選択されない場合があります。その場合は、お使いの DAW のオーディオセットアップ* ページで **Focusrite USB ASIO** をドライバーとして手動で選択する必要があります。ASIO または Core Audio ドライバーを選択する場所がわからない場合は、お使いの DAW のマニュアル (またはヘルプファイル) を参照してください。以下の例に、Ableton Live Lite の **Preferences** パネル (図は Windows 版) を示します。



* 一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

お使いの DAW で Scarlett 4i4 を優先オーディオデバイス* として設定すると、Input 1 ~ 4 および Output 1 ~ 4 が DAW のオーディオ I/O 環境設定に表示されます。お使いの DAW によっては、使用する前に特定の入力または出力を有効にする必要があります。以下の 2 つの例に、Ableton Live Audio の環境設定で有効にされている Input 1 & 2 と Output 1 & 2 を示します。



*一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

ループバック入力

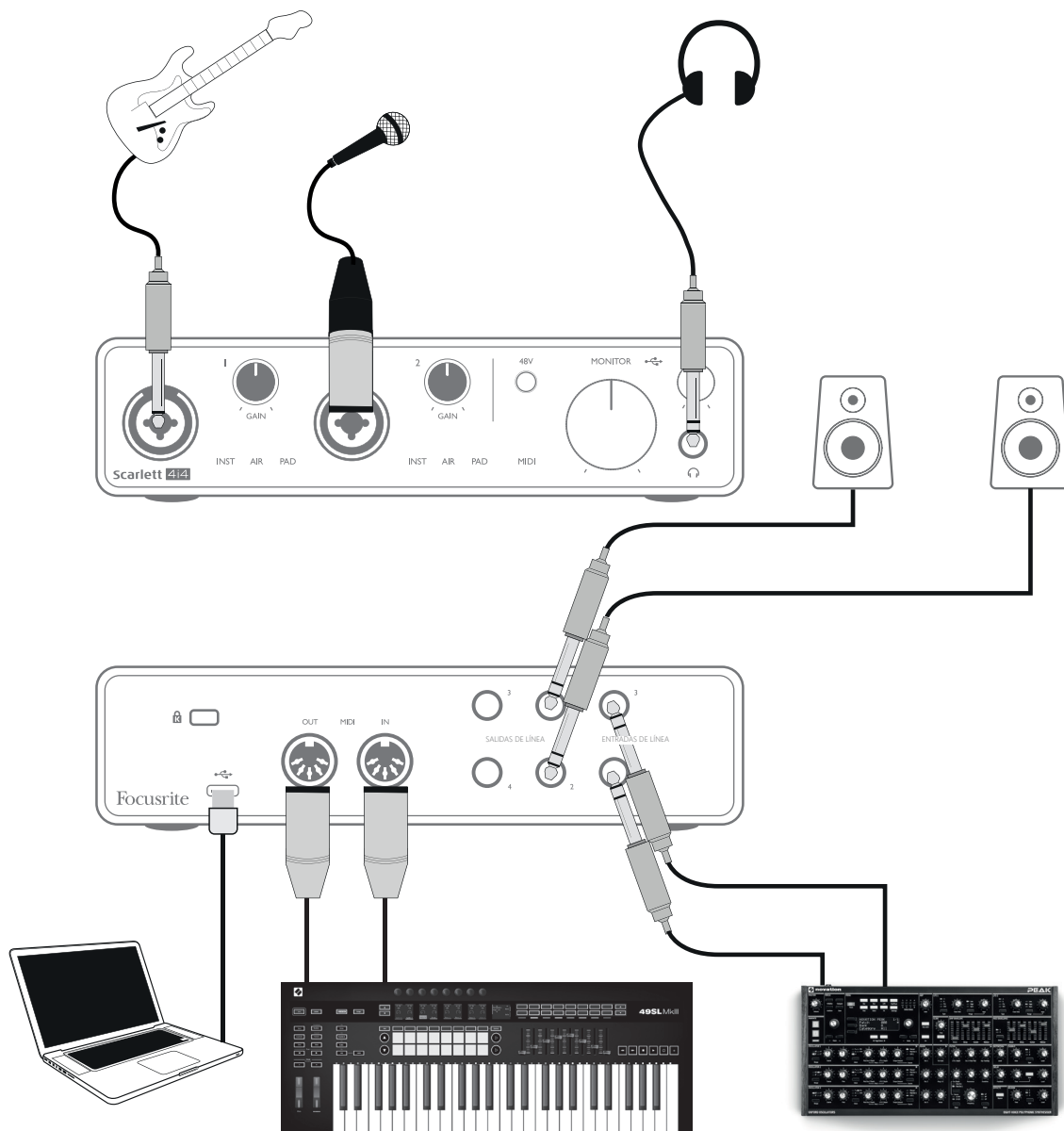
お使いの DAW の I/O 環境設定の入力設定ページを見ると、さらに 2 つの入力、Input 5 & 6 がリストされていることに気が付きます。これらは、ソフトウェア内の仮想「ループバック」入力であり、追加の物理入力ではありません。これらは、お使いのコンピューター内の音源 (例: Web ブラウザ) からの DAW トラックの録音に使用できます。Focusrite Control には、**Loopback 1-2** ミキシングタブがあり、このタブでどの入力を録音するかを選択できます。

ループバック入力の使用方法に関する詳細については、Focusrite Control User Guide を参照してください。

使用例

Scarlett 4i4 は、複数の異なるレコーディングおよびモニタリングアプリケーションがある場合に良い選択肢です。一般的な構成をいくつか以下に示します。

マイクまたは楽器の接続



このセットアップは、お使いの Mac または PC で DAW ソフトウェアを使用してレコーディングを行う際の最も一般的な構成を示しています。この場合、ヘッドフォンまたはラウドスピーカーを介した DAW からの再生をモニタリングしながら、Input 1 でギターを、Input 2 でボーカルを DAW に録音できます。一方、Input 3 および 4 (リヤパネル上) は、ラインレベル音源に接続できます。この例では、Novation Peak アナログシンセサイザーを図示しています。

フロントパネルの入力ソケットは「コンボ」タイプのもので、XLR オスコネクタまたは 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックプラグのいずれかに対応しています。マイクプリアンプのフルゲインレンジは、XLR 接点を介して接続されているマイクのみで利用できます。お使いのマイクのケーブル

の一端に XLR プラグがある場合は、それを差し込むだけで利用できます。コンデンサー（「静電型」）マイクの場合、正常に動作させるには 48 ボルトファンタム電源をオンにする必要があります。ほとんどのその他のタイプの現代のマイク（ダイナミックマイクやリボンマイク）は、不用意なファンタム電源の印加によって損傷することはありませんが、一部の旧式のマイクは損傷する場合があります。疑いがある場合は、お使いのマイクの仕様を確認してください。

Scarlett 4i4 には、「マイク/ライン」スイッチはありません。Focusrite のプリアンプ段は、入力に XLR を接続すると自動的にマイク用に、ジャックプラグを接続すると自動的にラインまたは楽器用に設定されます。楽器を接続する場合は、Focusrite Control から **INST** を選択（"INST" が赤色に点灯）します（例：この例のギターは、通常の 2 極 (TS) ギタージャックを使用）。キーボード、シンセサイザーまたは外付けオーディオミキサーのバランス出力などのラインレベルの音源を 3 極 (TRS) ジャックから接続する場合には、INST の選択を解除します。コンボコネクタは、TRS と TS の両タイプのジャックプラグに対応しています。

Scarlett 4i4 の入力チャンネル 1 および 2 のそれぞれに PAD 機能があります。Focusrite Control からこの機能を選択すると（アクティブになると PAD が緑色に点灯）、お使いの DAW に送られる信号レベルが 10 dB 低減されます。この機能は、出力レベルが特に高い音源からの入力を送る必要があり、最小ゲインでもクリッピングやゲイン Halo が赤色になるような場合に役立ちます。

ダイレクトモニタリングの使用

デジタルオーディオシステムに関連して、「レイテンシー」という用語を耳にしたことがおありでしょう。前述のようなシンプルな DAW レコーディングアプリケーションの場合、レイテンシーとは、入力信号がお使いのコンピューターおよびオーディオソフトウェアを通過し、戻ってくるのにかかる時間です。シンプルなレコーディングの状況ではさほど問題にはなりません。状況によっては、入力信号をモニタリングしながらレコーディングしたい演奏者にとって、レイテンシーが問題になり得るのです。たとえば、お使いの DAW のレコーディングバッファのサイズを増加する必要がある場合などです。これは、特に大きなプロジェクトで、多数の DAWトラック、ソフトウェア楽器および FX プラグインを使用して多重録音をレコーディングする場合などに必要になります。バッファの設定が低すぎる場合の一般的な症状は、グリッチ音（クリック音やポップ音）、または DAW 内における特に高い CPU 負荷（ほとんどの DAW には CPU 読み出しがあります）などです。このような症状が Mac で発生した場合は、DAW アプリケーション自体からバッファサイズを上げることができますが、Windows PC では、十中八九 ASIO コントロールパネルから変更する必要があり、そこへは通常は DAW Setup Preferences* からアクセスしなければなりません。

Scarlett 4i4 では、Focusrite Control と連携して、「ゼロレイテンシー」モニタリングを可能にし、この問題に対処しています。Focusrite Control を使用して、入力信号をモニタリングすることで、バッファサイズが非常に大きい場合でも、コンピューターで再生される音と共に、リアルタイムでご自身の演奏を聞くことができます。この設定によって、お使いのコンピューターに入力される信号が影響を受けることは決してありません。ただし、DAW でインスタンス化されているプラグインの効果は、聞くことができないことに注意してください。なぜなら、この方法でモニタリングすることにより、ソフトウェアに到達する前の信号を聞いているからです。また、お使いの DAW で録音しているチャンネルをミュートにするのを忘れないでください。そうしなければ、モニタリングしている信号と、DAW から返ってくるその信号のエコー効果の両方が聞こえてしまうからです。

*一般的な名称。この用語は、DAW によって若干異なることがあります。

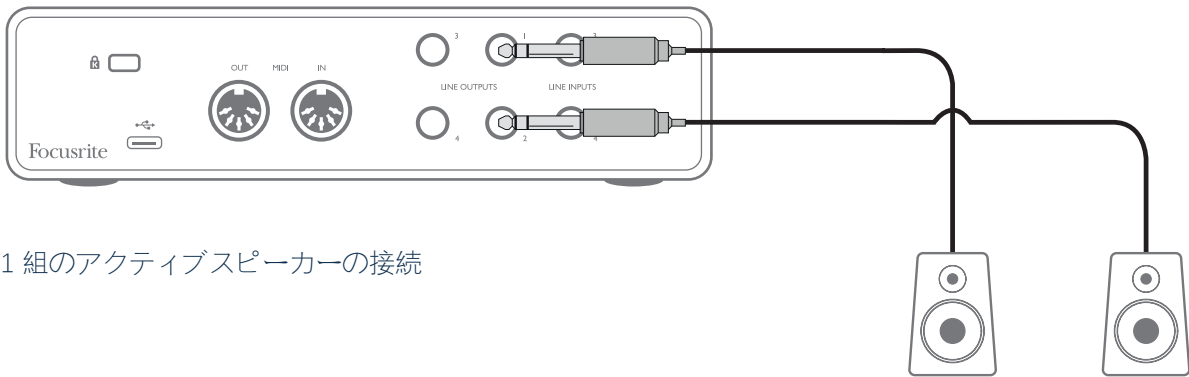
Scarlett 4i4 のラウドスピーカーへの接続

Scarlett 4i4 の出力を使用して、モニタリングスピーカーを接続できます。すべての出力は、電氣的にバランスがとられ、リヤパネルの 1/4 インチ (6.35 mm) 3 極 (TRS) ジャックで利用できます。

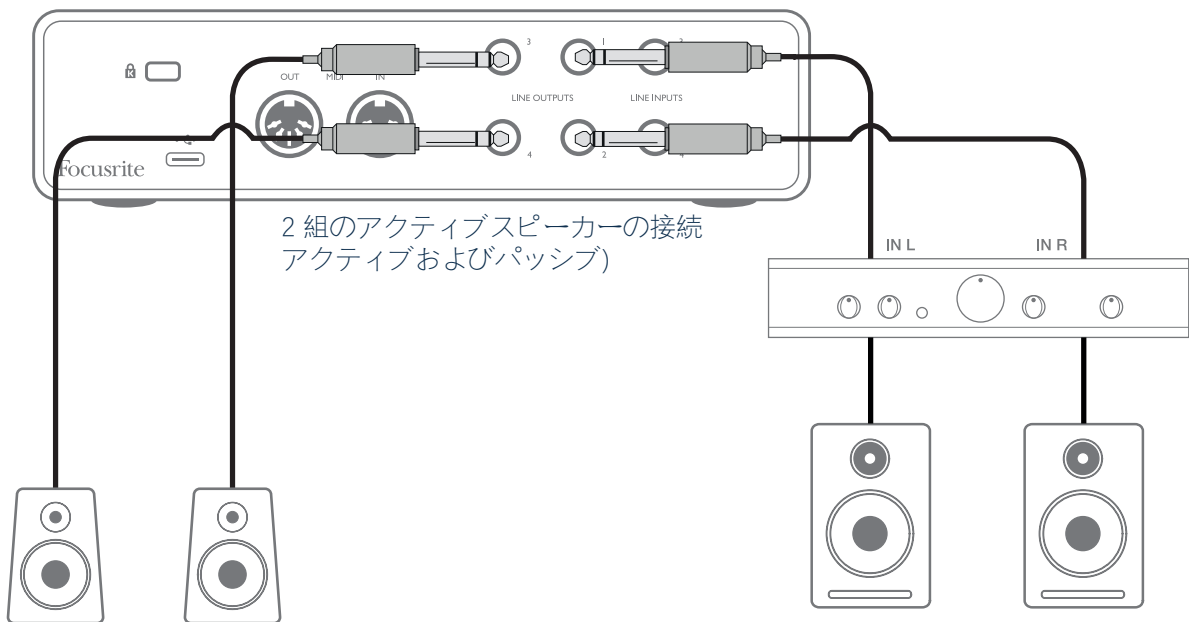
LINE OUTPUT 1 および **2** を、主要なモニタリングに使用する場合、**LINE OUTPUT 3** および **4** は、追加のレコーディング機器や一組のモニターの接続など、別の目的に自由に使用できます。ただし、フロントパネルの大きな **MONITOR** 音量調整つまみによってレベルに影響を受けるのは **LINE OUTPUT 1** および **2** のみであることに注意してください。また、Output 3 および 4 は、フロントパネルのヘッドフォンの出力を送るのにも使用されます。

LINE OUTPUT 3 および **4** の信号は、(フル) 固定レベルであるため、これらの出力をモニタリングに使用する場合は、Focusrite Control から音量を調整するか、外部アンプで音調を調整する必要があります。

電源内蔵式のモニター (例: 通常のコンピュートースピーカー) には、内蔵アンプが音量調節装置とともに組み込まれているため、直接接続することができます。大型のパッシブラウドスピーカーには、別途ステレオアンプが必要です。この場合、リヤパネルの出力部をアンプの入力部に接続する必要があります。



1 組のアクティブスピーカーの接続



2 組のアクティブスピーカーの接続
アクティブおよびパッシブ)

下の図に示されているセットアップでは、Output 3 および 4 に接続されている小さな 1 組のアクティブモニターは、「ニアフィールド」モニターとして動作し、その音量はスピーカー上でロー

カルに調節するか、Focusrite Control から調節します。パッシブメインモニターの音量は、フロントパネルの MONITOR 調整つまみによって調節します。

一般的な民生用 (hi-fi) アンプや小電力モニターは、フォノ (RCA) ソケットまたはコンピュータに直接接続するように設計された 3.5 mm 3 極ジャックプラグのいずれかにアンバランス入力を備えています。いずれの場合にも、1 端にフォノプラグ (RCA ジャック) のついた適切な接続ケーブルを使用します。

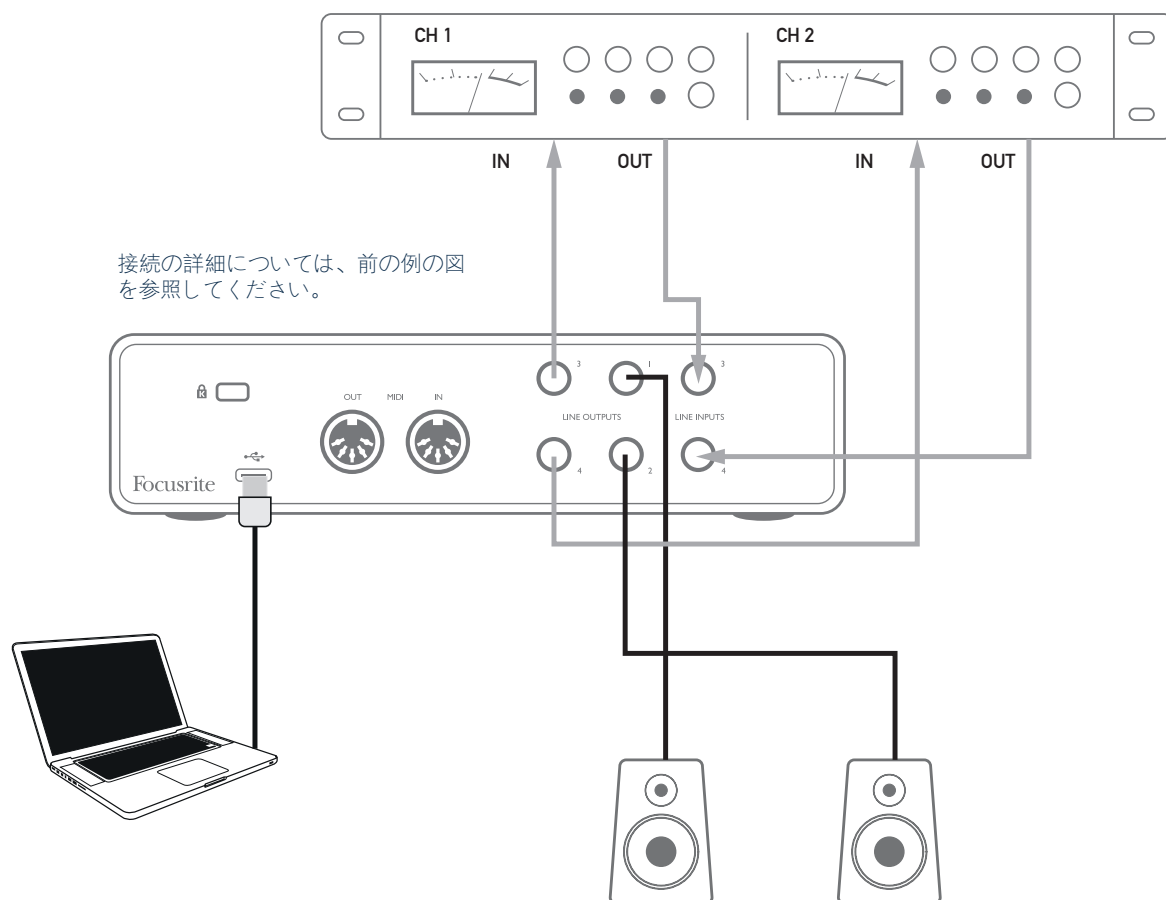
業務用パワーアンプは、一般的にバランス入力を備えています。これらを Scarlett 4i4 の 1/4 インチジャック出力に接続するには、バランスケーブルを使用することを推奨します。

注記: マイクをモニタリングしているときにラウドスピーカーがアクティブになっていると、オーディオフィードバックループが生じるおそれがあります。レコーディング中は必ずモニタリング用のラウドスピーカーをオフにし (または音量を下げ)、オーバーダビング中はヘッドフォンを使用することを推奨します。

エフェクトループの作成

Scarlett 4i4 では、外部アウトボードプロセッサまたはエフェクトを簡単に統合できます。その良い例として、アウトボードステレオコンプレッサーを上述のレコーディングセットアップに似た構成への統合です。

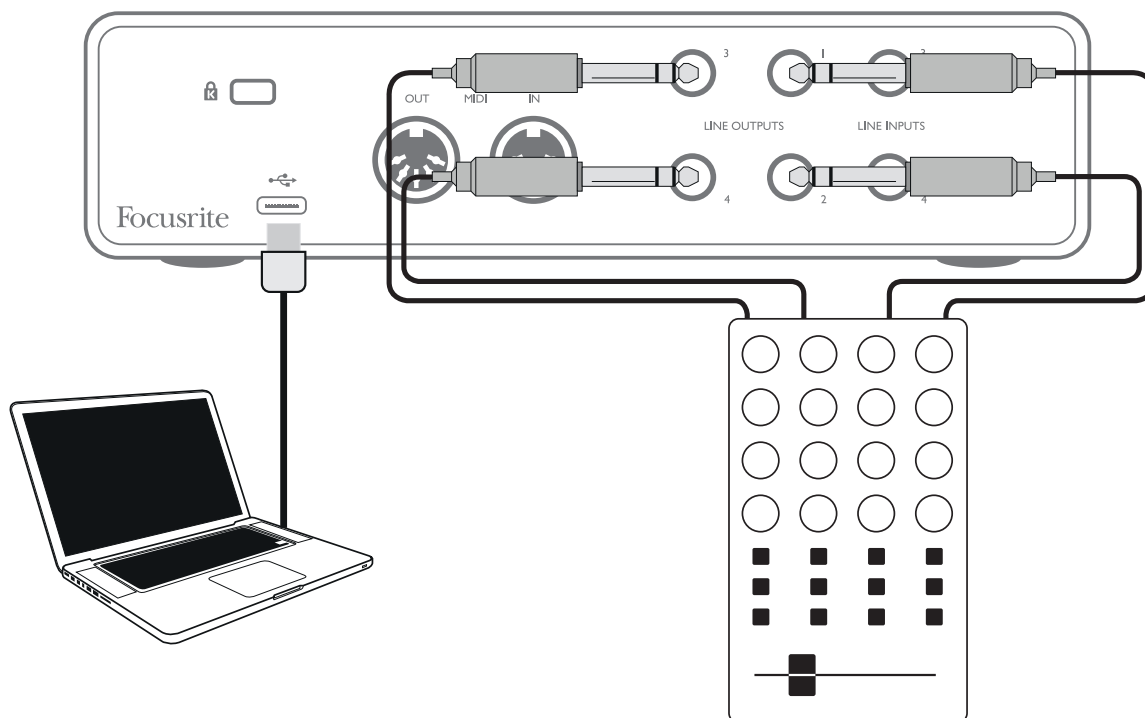
以下に示すように Line Output 3 および 4 をコンプレッサーの入力部に、コンプレッサーの出力を Line Input 3 および 4 に接続します。わかりやすくするために、この例ではフロントパネルの接続を省略しています。



必要に応じて、外部プロセッサの入出力信号レベルを Focusrite Control から調整できます。

Scarlett 4i4 の DJ ミキサーへの接続

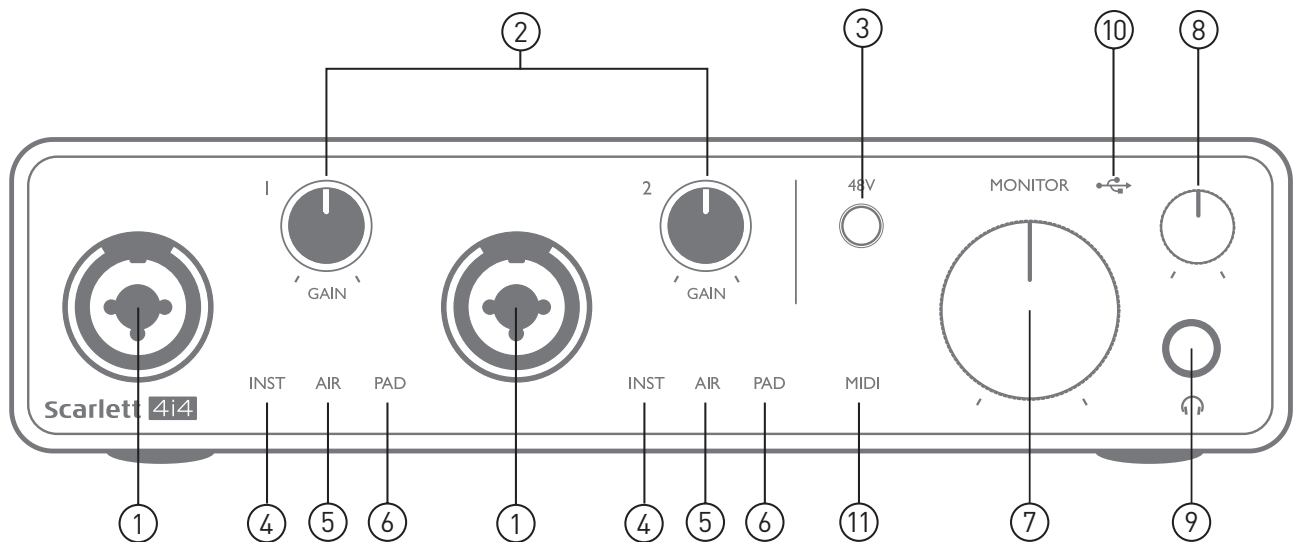
Scarlett 4i4 は、DJ ソフトウェアを搭載しているノート型パソコンと DJ ミキサーの各チャンネルとの間で優れたインターフェイスとして機能します。このセットアップでは、Output 1 および 2 を外部 DJ ミキサーの Line Input 1 および 2 に、Output 3 および 4 を Line Input 3 および 4 に接続できます。このように接続することは、EQ やクロスフェードなど、すべてのミキサーの機能に簡単にアクセスできることを意味します。ただし、フロントパネルの Monitor レベル調整つまみを最大に設定する必要があることに注意してください。そうしなければ、Output 1 および 2 が Output 3 および 4 よりも低いレベルになります。



Scarlett 4i4 の出力は、バランスがとれていますが、1/4 インチ TS ジャックを装着したケーブルを使用してアンバランス入力に接続される可能性があります。ほとんどの DJ ミキサーは、フォノ (RCA) ソケットを備えたアンバランス入力を有しているため、接続を行うには適切なフォノ - TS ジャックケーブルが必要です。




ハードウェアの特徴

フロントパネル

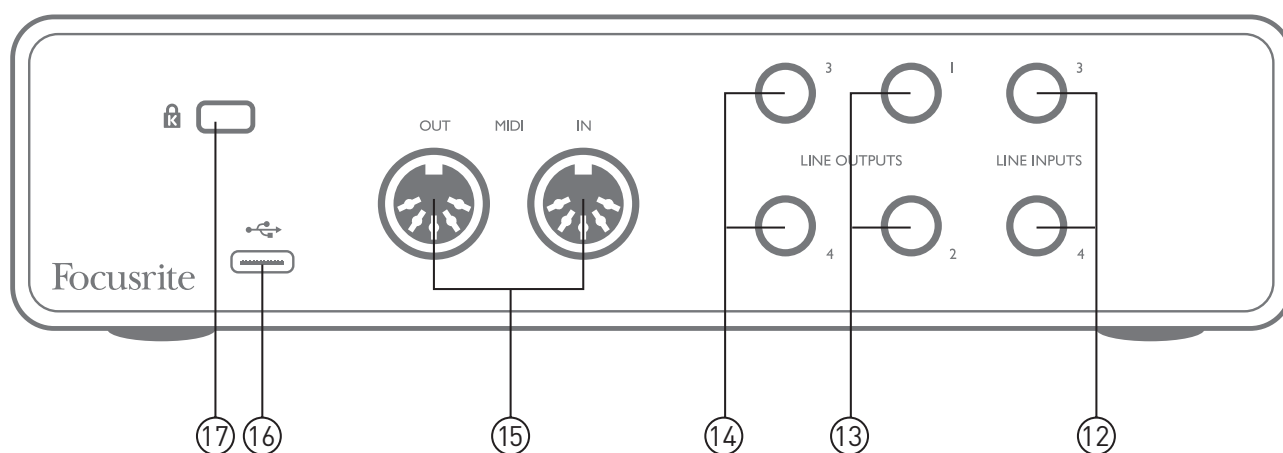


フロントパネルには、マイクおよびライン信号および楽器信号用の入力コネクタのほか、入力ゲインやモニタリングの調整つまみがあります。

1. **Input 1 & 2** – 「コンボ」タイプ入力ソケット - マイク、楽器 (例: ギター) またはラインレベル信号をここから接続します。コンボソケットは、XLR ジャックと 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックの両方に対応しています。マイクは、通常 XLR プラグを使用して接続します。楽器信号およびラインレベル信号は、TR または TRS のいずれかのタイプの 1/4 インチ (6.35 mm) ジャックプラグを使用して接続する必要があります。プリアンプのゲインは、XLR プラグが差し込まれるとマイクに適したものとなり、ジャックプラグが差し込まれるとさらに高いレベルの信号に適したものになります。XLR プラグを介してマイク以外のもの (例: サウンドモジュールや FX 機器の出力) を接続しないでください。その信号レベルによって、プリアンプのオーバーロードが発生し、歪みが生じたり、ファンタム電源が有効になっている場合は、装置が損傷することがあります。
2. **GAIN 1** および **GAIN 2** – Input 1 および 2 の信号のプリアンプゲインをそれぞれ調整します。ゲイン調整つまみには、信号レベルの確認に使用する 3 色の同心円状の LED リングがあります。緑色は、入力レベルが最低 -24 dBFS (「信号あり」)であることを示します。信号レベルが -6 dBFS になると、リングが琥珀色に変わり、信号がクリッピングに近づいていることを通知し、最終的に 0 dBFS (デジタルクリッピング) に達すると赤色になります。
3. **48V** – マイク入力用のファンタム電源スイッチ - 両方のコンボコネクタの XLR 接点で、48 V のファンタム電源を有効にします。
4. **INST** – 2 つの赤色の LED で、Input 1 または 2 に Focusrite Control から楽器モードが選択されると点灯します。ゲインは楽器信号に合わせて設定されます。INST がオフになっていると、1/4 インチジャック入力にはラインレベル信号 (例: キーボード、シンセモジュールまたは FX 機器) に対応するように設定されます。
5. **AIR** – 2 つの黄色の LED で、Input 1 および 2 に AIR モードが選択されていることを示します。Focusrite Control から選択し、AIR を使用すると、入力段の周波数特性を修正し、伝統的なトランスフォーマーベースの Focusrite ISA マイクプリアンプをモデリングできます。
6. **PAD** – 2 つの緑色の LED で、Input 1 または 2 に Focusrite Control から PAD が選択されると点灯します。PAD は、お使いの DAW に送られる信号のレベルを 10 dB 低減します。入力音源の信号レベルが特に高い場合に使用します。

7. **MONITOR** – メインモニター音量調整つまみで、リヤパネルの Output 1 および 2 の出力レベルを設定します。
8.  ヘッドフォンレベル – フロントパネルのステレオヘッドフォンの出力レベルを調整します。
9.  ヘッドフォンソケット - 1/4 インチ TRS 出力ジャック – ここにお使いのステレオヘッドフォンを接続します。
10.  USB LED – 本体に USB バスパワーが給電され、コンピューターにより正しい接続と動作が確認されると点灯します。
11. **MIDI LED** – **MIDI IN** ポートで MIDI データを受信すると点灯します。

バックパネル



12. **LINE INPUT 3** および **4** – 1/4 インチ TRS ジャック x 2。これらは、バランス入力であり、追加のラインレベル音源 (例: キーボード、シンセモジュールまたは FX 機器からの音源) に使用します。
13. **LINE OUTPUT 1** および **2** - 1/4 インチ (6.35 mm) TRS ジャックソケット x 2、電氣的バランス出力。これらの出力のレベルは、フロントパネルの **MONITOR** 調整つまみを使用して調整します。その最大出力レベルは、+10 dBu です。1/4 インチ TRS (バランス接続) または TS (アンバランス接続) ジャックプラグのいずれかを使用できます。
14. **LINE OUTPUT 3** および **4** - 1/4 インチ (6.35 mm) TRS ジャックソケット x 2、電氣的バランス出力。これらの出力のレベルは、Focusrite Control から調整できます。その最大出力レベルは、+10 dBu です。1/4 インチ TRS (バランス接続) または TS (アンバランス接続) ジャックプラグのいずれかを使用できます。
15. **MIDI IN** および **MIDI OUT** – キーボードやサウンドモジュールなど、外部 MIDI 機器の接続用の標準 5 ピン DIN ソケット。Scarlett 4i4 は、お使いの DAW との便利な MIDI インターフェイスとして機能するため、コンピューターの MIDI カードは不要になります。
16.  **USB 2.0** ポート – Type C コネクタ。付属のケーブルでお使いのコンピューターに接続します。
17. **K** (ケンジントンセキュリティロック) – 必要に応じて、お使いの Scarlett 4i4 を適切な構造物に固定し、セキュリティ対策を施します。

チャンネル一覧

以下の表に、Scarlett 4i4 の入出力がお使いの DAW の入出力チャンネルにどのように対応しているかを示します。

入力	4i4 ハードウェア入力		
	44.1/48 kHz	88.2/96 kHz	176.4/192 kHz
Ch 1	Input 1	Input 1	Input 1
Ch 2	Input 2	Input 2	Input 2
Ch 3	Input 3	Input 3	Input 3
Ch 4	Input 4	Input 4	Input 4
Ch 5	Loopback 1	Loopback 1	
Ch 6	Loopback 2	Loopback 2	

出力	ソフトウェア再生 (出力)		
	44.1/48 kHz	88.2/96 kHz	176.4/192 kHz
Ch 1	Output 1	Output 1	Output 1
Ch 2	Output 2	Output 2	Output 2
Ch 3	Output 3 (Headphones L)	Output 3 (Headphones L)	Output 3 (Headphones L)
Ch 4	Output 4 (Headphones L)	Output 4 (Headphones L)	Output 4 (Headphones L)

仕様

性能仕様

注記: すべての性能数値は、AES17 の規定に従い測定しています (該当する場合)。

クロックソース	内部
対応サンプルレート	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
マイク入力	
ダイナミックレンジ	111 dB (A-特性周波数重み付き)
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
THD+N	<0.0012% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力、22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
ノイズ EIN	-128 dB (A-特性周波数重み付き)
最大入力レベル	+9 dBu (PAD なし)、+16 dBu (PAD 選択)、最小ゲインで測定
ゲインレンジ	56 dB
入力インピーダンス	3 kohms

Line Input 1 および 2	
ダイナミックレンジ	110.5 dB (A-特性周波数重み付き)
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
THD+N	<0.002% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力、 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+22 dBu (PAD なし)、+29.5 dBu (PAD 選択)、 最小ゲインで測定
ゲインレンジ	56 dB
入力インピーダンス	60 kohms
楽器の Input 1 および 2	
ダイナミックレンジ	110 dB (A-特性周波数重み付き)
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
THD+N	<0.03% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力、 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+12.5 dBu (PAD なし)、+14 dBu (PAD 選択)、 最小ゲインで測定
ゲインレンジ	56 dB
入力インピーダンス	1.5 Mohms
Line Input 3 および 4	
ダイナミックレンジ	110.5 dB (A-特性周波数重み付き)
周波数特性	20 Hz ~ 20 kHz \pm 0.1 dB
THD+N	<0.002% (最小ゲイン、-1 dBFS 入力、 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
最大入力レベル	+18 dBu 最小ゲインで測定
入力インピーダンス	44 kohms
ラインおよびモニターの出力	
ダイナミックレンジ	108.5 dB (A-特性周波数重み付き)
最大出力レベル (0 dBFS)	+15.5 dBu (バランス)
THD+N	<0.002% (最大レベル、-1 dBFS 入力、 22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタ)
出力インピーダンス	430 ohms
ヘッドフォン出力	
ダイナミックレンジ	104 dB (A-特性周波数重み付き)
最大出力レベル	7 dBu
THD+N	<0.002% (22 Hz/22 kHz バンドパスフィルタを使用して +6 dBu で測定)
出力インピーダンス	<1 ohm

物理的特性と電気的特性

アナログ入力 1 & 2	
コネクタ	XLR 「コンボ」 タイプ: フロントパネルの Mic/Line/Inst
マイク/ライン切替	自動
ライン/楽器切り替え	Focusrite Control からチャンネルごとに選択
パッド	10 dB 減衰、Focusrite Control からチャンネルごとに選択
ファンタム電源	Input 1 & 2 共用の +48 V ファンタム電源スイッチ (XLR 接続専用)
AIR 機能	Focusrite Control からチャンネルごとに選択
アナログ入力 3 & 4	
コネクタ	リヤパネルの 1/4 インチ (6.35 mm) TRS ジャック
アナログ出力	
バランス出力	リヤパネルの 1/4 インチ (6.35 mm) TRS ジャック x 4
ステレオヘッドフォン出力	フロントパネルの 1/4 インチ TRS ジャック
メイン出力レベル調整つまみ	フロントパネル上
ヘッドフォンレベル調整つまみ	
その他の入出力	
USB	USB 2.0 Type C コネクタ x 1
MIDI	5 ピン DIN ソケット x 2
フロントパネルのインジケータ	
USB 電源	緑色の LED
ゲイン Halo	3 色の LED リング (GAIN 調整つまみの付いた同心円状のリング)
ファンタム電源	赤色の LED
楽器モード	赤色の LED x 2
AIR モード	琥珀色の LED x 2
パッドがアクティブ	緑色の LED x 2
MIDI データ受信	緑色の LED
重量および寸法	
幅 x 高さ x 奥行	185 mm x 47.5 mm x 119.7 mm 7.28 インチ x 1.87 インチ x 4.71 インチ
重量	615 g 1.36 lb

トラブルシューティング

トラブルシューティングに関する質問がある場合には、Focusrite Help Centre サイト、<http://support.focusrite.com/> にアクセスしてください。このサイトでは多数のトラブルシューティング例を紹介しています。

著作権表示と法定通知

Scarlett 4i4 には、世界のどこでも有効な製造上の欠陥に対する 2 年間の保証が付いています。この保証のすべての条項については、<https://focusrite.com/warranty> をご覧ください。

Focusrite は登録商標であり、Scarlett 4i4 は、Focusrite Audio Engineering Limited の商標です。

その他すべての商標および商品名は、それぞれの所有者の財産です。
2019 © Focusrite Audio Engineering Limited. 禁無断転載。